

やすらぎ



「歎異抄」(第四十九回)

樺 曉 講述

「歎異抄」後述 続き
 おおよそ聖教には、真実権仮ともにあいまじわりそうらうなり。権をすてて実をとり、仮をさしおきて真をもちいるこそ、聖人の御本意にてそうらえ。かまえてかまえて聖教をみみだらせたまうまじくそうらう。大切の証文ども、少々ぬきいでまいらせそうらうて、目やすにして、この書にそえまいらせてそうらうなり。

(真宗聖典六四〇頁)

第十一条から十八条までに書いてある様な事をいふらして、人を弟子にしようと考えておる様な人々に、迷わされそうになった時は、親鸞聖人が、間違えなさいといわれた御聖教を読みなさいという事。

だから親鸞聖人の著作は入っていない、しかしながら我々にとっては親鸞聖人の御著作は当然の事。やはり聖典を中心とした聞法が大事というところがそこにある。話す人がまず勉強しなければならぬ、聞く人だけが勉強するだけではない、聞いて頂くことに於いて話す人が勉強させてもらう、我々から云うならば、親鸞聖人の御著作と親鸞聖人が推薦された御聖教をよくよく拝読しなければならぬ。

御聖教は、真実と方便が混じっている、『大無量寿経』の中にも方便がある。あらゆる御聖教には、真実に導かれるための方便が説かれている。それほど我々は真実に疎い、方便がないと真実に入れない。その為に積尊は方便をお説きになり、又、釈尊のころをうけた菩薩とか、高僧の書かれたものにも方便がある。何が真実で何が方便なのかをハッキリしなければならぬ。

光照寺寺報

発行所
 真宗大谷派 弘興山
 宗教法人光照寺
 〒331-0821
 さいたま市北區別所町102-2
 電話：048-651-2781代
 FAX：048-651-2753
 E-mail
 yasuragi@beige.ocn.ne.jp
 ホームページ
 http://koshoji76.jp
 発行人 池田孝郎

「権」というのは方便、「仮」というのは一時的な教え、「真」は永遠の道理。十分注意して、御聖教を自分の考えで見誤る、真実と方便を混乱してはなりません。これは、『歎異抄』の第一条から第十条までの親鸞聖人のお言葉を真実の証文として、この書に添えてあります。

「歎異抄」というのはだいたい異義八ヶ条が中心。その異義八ヶ条が間違っている事を証明する証文として、師訓十ヶ条、一条から十条までのお言葉がある。

「この書にそえまいらせてそうらうなり。」と書いてあるから、そこに別に添えてあったものがあるのではないかという人もいるが、私はそうではないと思う。一条から十条までの十ヶ条が真実の教えを親鸞聖人が解り易く説いて下さったお言葉。

八ヶ条が本来『歎異抄』と名前が示す通り異義八ヶ条が本来の目的だが、それに親鸞聖人のお言葉を前に出している。こういう様に私は思う。
 (当寺)法話抜粋要約、文責副住職 釈徹照(次回へ続く)

報恩講お斎



報恩講講師 田畑正久先生



旅行記

子供会報告

春季彼岸会法要

三月十日(月)午後一時三十分厳修

詳細は四頁

詳細は三頁

詳細は三頁

無碍光

一凡夫が仏になる法一

住職 池田 孝郎

諸行無常は仏法の三法印の一つであり、諸行無常を自覚し、如何に無常を超えるかを示されたのがお釈迦様であります。

方丈記を書いた鴨長明は「ゆく川の流れば絶えずして、しかも、もとの水にあらず」と書き、天災・飢饉の様子を記し、無常観を嘆くのであった。

無常観を超える命題は大きく、深遠であります。それは何故かと申しますと、この世に生まれた意味を問い、この世に生きる意味を問い、老いてゆく身を問い、病の身を問い、死してゆく身を問うものでありますから、その問いに答えを見出すのは容易ではありません。幸いに二千五百年前にお釈迦様がこの四つの問いを問い、城を捨て、王位を捨てて苦行六年の後、まだ悟れずとして、菩提樹の下に結跏趺坐され、悟らば立たじと決意され、七日目の暁に魔を降し悟られ、悟られた法を悦ばれたのであります。しかし、この悟られた法は説くことは出来ないと、死のうとされたところ、梵天がその説けない悟りの法を我々に説いて下さいと勧請され、それでは説こうとされますが、だれに説こうかと考えられ、一緒に六年間修行した五人の比丘を鹿野苑に尋ね、説かれた法が初転法輪であります。そ

れが縁起の法ともいわれます。二十九才で城を出て、六年間修行し、三十五才で悟られ、八十才で涅槃された歩みの中で、初転法輪から涅槃の四十五年間に説かれた仏教が今日、浄土の真宗として、大乘仏教の至極として、末法濁世の二十一世紀を生きる私のところまで届き、無常を超える光となつて世を照らし続けて下さいます。この教えなくば、だれがこの世の無常を超えられましょうか。

お釈迦様から七高僧、親鸞聖人の求道の証として、未来世まで世の光となるでありますよう。

「三帰依文」の「人身受け難し」の冒頭の言葉から、「仏・法・僧」の三宝に帰依するところに、この無常を超えることを示し、蓮如上人の「白骨の御文」に「後生の一大事」としめされ、今こそ念仏申すべきと勧化され教え示して下さいます。

金子大栄師は「必要にして充分なるもの、なにか一つ無駄というものが無い。深い充実感と深い謝念をもつて死の問いに応える。」とお念仏の教えを称えられている。

涅槃経に「諸行無常、是生滅法、生滅滅已、寂滅為楽」と示し、「煩惱即菩提・生死即涅槃」と示される。

あるがままを受け止め念仏のところに無常を超える道あり。合掌。

真の依り処

悲しみを生きる

ひとは最愛の人と別れるとき自らの愛の限界を知ります。あらゆる世間の問題を佛法の問題として頂いて願いの生活がうまれ私にとつて何よりの喜びです。師からは生きるということは精神生活であり、師に出遇い導いて下さらなければ浄土を願生する事は出来ません。この愚かで身勝手な私が浄土を願生することは大変不思議なことです。人は悲しみや苦しみを通さないと見えないものです。御佛の教えが身を指します。宿業因縁を背負い如来様に感謝申し上げ一日一日を大切に過してまいります。光といのちに摂取され再び迷い苦しむことのない阿弥陀様のお救いを契り処にして生きることが、ほんとうに落ち着く場です。南無阿弥陀佛

岡田ノリ子

鈴の音

うけがたき人身を
いまいだいており、
聞きがたき仏法に
いま遇うている

宮城顕(生と死より)

前回は「宗教的罪」について考えてみましたが、今回は「無常観」について考えて見たいと思います。それは何故かと申しますと、西洋人は「罪悪感」が強く、日本人は「無常観」の方が強いともいわれます。宗教的根元にこの二つの要素があり、それをどう超えるかに宗教的命題があることです。

日本人の情感として、「物の哀れ」が底流にあると思います。

仏教伝来と共感した情感が「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり」ではじまる平家物語が象徴し、弘法大師空海の作といわれる、「いろは」歌であります。

春季 彼岸会法要

- ・3月20日(月)春分の日
- ・午後1時30分～3時30分
まで(1時受付)
- ・光照寺本堂にて
- ・勤行・法話

※準備の都合上、出席人数をご連絡
下さい。預骨されている方は率先
してお参り下さい。
ご参詣をお待ちしております。

彼岸参り

- ・3月17日(金)
- ～23日(木)の期間
(但し20日は除く)

※ご希望の日にちをお知らせ下さい。
時間につきましてはこちらで調整
させていただきます。ご自宅か当寺の
いずれかで読経いたします。



あるご門徒さんは、お寺に頻繁に通っていると、知人から何故そんなにお寺に行くの？何の用事があるの？と聞かれるらしい。おそらくその知人はお寺イコール葬儀や法事というイメージで発していると思像はできません。世間の大半はそのようなイメージで捉えられているとも思います。その一方で、禅宗なら参禅会、苦行の宗教は滝行があったり、お遍路、回峰行など、お寺は基本にお坊さんが修

行する所で、在家者はその一分を体験するということでお寺や仏教との関わりがあると思います。

では浄土真宗はというと聞法ということがあります。会を開催すれば聞法会と云います。仏法を聞く、もつと云えば仏法を生活に照らして身と心で味わう。生活を離れて仏法は無し、仏法を離れて生活は無い。ということ聴いて聴いて聞く、聴聞する、聴聞したら生活が快適になるわけではないけど、何に苦悩しているかみえてくる、自我を立てている自分がみえてくる。それがみえると手が合わる生活が始まる。

お彼岸を通して本当に手が合わることをみつめてみませんか。亡き人を偲びつつ一緒に念仏しましょう。

副住職(釈徹照)

子供会報告

子供会「ボニークラブ」
子供報恩講

坊守 池田 邦子

十二月二十四日(土)二、三日暖かい日の続いた今日、クリスマスイヴ。当寺においては子供報恩講を大人七名、小人八名の参加を得て厳修致しました。陽子さんの導師の勤行から始まり、恵美さんのママ友のお子さん二人連れての初参加あり、仏様のお話本の読み聞かせ、カルタとり、子供達の大きな声が本堂に響きわたりました。お斉は手巻き寿司、大



手巻きずし



集合写真

きなしじみの味そ汁や生クリームたっぷりのクレープを頂き、持ちよった品のプレゼント交換で盛り上がり、楽しい会になりました。恩徳讃で散会を致しました。次回は四月三日(月)花まつりを予定しております。お釈迦様の誕生佛に甘茶をかけてお参りします。お出かけ下さい！

ひとくち 歎異抄

羅漢:無常の世界を超えとは。
「煩悩具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろずのこと、みなもって、そらごととたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておわします。」後序



「無常を超える道はただ一つ、念仏申すことです。」

川越喜多院の五百羅漢

光照寺、旅行記

平成二十八年十月二十九日～三十

日、光照寺旅行『世界遺産五箇山と、妙好人 赤尾の道宗を訪ねて』―北陸新幹線に乗って富山・金沢へ―と題して北陸へ旅行しました。幹事長谷口氏、幹事淡海氏、平山氏。参加者の方々の感想をお寄せいただきました。皆様はこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

(編集長 副住職池田孝三郎)

【旅程表】

一日目

大宮駅→富山駅→(昼食)→西赤尾 行徳寺→新屋道善寺→五箇山(相倉集落)→井波別院 瑞泉寺→砺波ロイヤルホテル宿泊(ホテルで佐々木先生のご法話)

二日目

ホテル→鈴木大拙館→金沢 兼六園→(昼食)→ひがし茶屋街→近江町市場(買物)→金沢駅→大宮駅

私が幹事長???

谷 口 正 司

消去法ではあっても、私が幹事長になることが決まった途端の重圧感を忘れることができません。

旅行の打ち合わせなどでは、当然のように、幹事長の重圧が押し寄せてきます。

「なんとしても旅行参加の皆様を、無事旅行を終えて大宮まで帰ってきたい」、「何かトラブルが発生するのではないか」、こんなことばかり頭に浮かんでいきます。

これが、旅行開始日前の数日間、特に大宮駅での集合待ちのときに、そのピークがやってきました。(見た目は普通のようなのですが、心の中ではそんな感じです!!!)

いつものことなのですが、「後は野となれ山となれ」と臍を決めてしまえば、後は旅行完遂に向けて、自分にできることを精一杯頑張るのみなので

すが…。

幹事長の気負いから、三つもの企画を準備していたが、一つ目の難読地名クイズ、さすがに埼玉県の地名は正答率が高かったのですが、旅行先の富山県・石川県の地名はほぼ全滅、

ちよつと難しすぎた問題の文字も小さすぎた)ので失敗、二つ目の大宮アルデージャのグッズは、過去3回はビンゴの賞品としていましたが、今回は時間がとれなくて配布するのみとなりこれも失敗、残った一つはボツになって失敗。

この旅行に参加して頂いた方々には、「スケジュールがタイトなので、時間厳守でお願いします」を連呼している幹事に呼応し、時間通りに集合して頂けました。

さりながら、旅行にご参加の皆様には大きな負担を強いてしまったのではないかと、反省しています。

特に、高齢な方、歩行に不安も持っている方などが、遅れないように一生懸命歩かれている姿を拝見して、感動を覚えるとともに、もう少し易しい旅行行程すべきだったと、次回光照寺旅行への申し送り事項にさせていただきます。

余談ですが、鈴木大拙館のチケット購入の時に、65歳以上の人は割引になることが判明し、24人中の16人が対象となることが分かったときに、これがお寺の旅行であることと、日本の高齢者の割合を、改めて実感することとなりました。

この場にいた方々も同じ思いを抱いたのでは…。

幸いにも、今回の光照寺旅行を無事終えることができたのは、参加されている皆様と、旅行幹事・事務局が一

体となって行動できたことが一番良かったのではと、私は感じています。

そして、旅行幹事の淡海さん(最もベテラン、平山さん(今回が初めて、そして、旅行事務局の副住職(最も若いのに旅行最古参)に、慣れない幹事長がために負担をかけてしまったのではないかと…。

唯々、感謝するしかありません。

旅行を終えて、何の役割もなく光照寺旅行に参加する日がいつ来るのだろうか、との思いを強く感じています。

それは、次回もしくは次々回かもしれないませんが早くそうなりたいと願うばかりです。

この旅行に参加された皆様、適宜、茶々(?)を入れて場を盛り上げて(?)頂いたご住職様、ご法話を頂いた玄吾先生、旅行幹事・事務局の皆様、本当にお疲れ様でした。

そして、ありがとうございました。

「赤尾の道宗」の足跡に見たものは

淡 海 雅 子

今回の旅の企画は「妙好人 赤尾の道宗」にスポットを当て、「鈴木大拙館」を含め富山、金沢の旅とした。道宗の強靱で持続的な求道精神の足跡を垣間見て企画当事者は感激している。

参加者の皆さんが道宗の姿に真宗を考ふる糸口を見出していただければこの旅行は目的を達することが出来たといえよう。

五箇山に道宗道トレイルランとい



行徳寺にて

う大会がある。これは今回訪問した五箇山の行徳寺から井波の瑞泉寺までの36km、累積標高差2620mという獣道と細い稜線を走る過酷なレースである。道宗が「一月のたしなみには、ちかきところ、御開山様の御座候ところへまいるべしと、たしなむべし」と言われるように蓮如上人の教えを受けるために通った道とほぼ同じコースである。私でも歩けるかと地図を調べたことがあったがとても挑戦できるものではなかった。行徳寺での道宗の御遺徳を伺い法を聞くために道宗を命がけで挑ませた原動力を推し量らずにはいられなかった。

「後生の一大事」この言葉に『今、こゝに、

私』ということを重ねて聴かせていたのだ。

佐々木玄吾先生のご法話を伺い、道宗に上人のおおせならは近江の湖を一人してうめると言われたお心が、親鸞聖人が法然上人にすかされまいらせて念仏して地獄におちたりともさらに後悔すべからずのお心と共通しているように聞こえた。善知識に出会う事は人ではなくその根源に流れる法であるからこそ共通して感じられるものであろう。それを鈴木大拙先生は日本的霊性と言われているのではないかと私は考えている。

初日は小雨の五箇山ではあったが秋の風情を感じ、また金沢では兼六園をはじめ観光名所を満喫した。皆様と共にとてもいい旅が出来たことに感謝申し上げます。 合掌。

行徳寺を訪ねて

平山 正三

今回の旅行は幹事として初めての旅行でしたが、参加者皆さんのご協力により無事終えることができました。ご協力ありがとうございました。

妙好人 赤尾の道宗開基の寺「行徳寺」を訪ね、住職不在のため坊守さんの道宗に関わるお話を頂き、道宗の信心深き人柄を垣間見ることができました。

「二月のたしなみには、朝勤めにかかさじと、たしなめ。一月のたしなみには、ちかきところ、御開山様の御座

候うところへまいるべしと、たしなむべし。一年のたしなみには、御本寺へまいるべしと、たしなむべし」。この言葉が一番印象に残ったお話であった。

私も、毎年京都の本山へのお参りは無理であるが、毎日の朝勤め、月一回の光照寺へのお参りは行うよう心がけていこうと思う。

また、行徳寺本堂のご本尊右側には、寝ても眠りにくいようにして、如来の御慈悲を思わせて頂き念仏するために割木の上に寝たと伝えられている割木の上に臥している臥像が安置されており、左側の壁には棟方志功の版画の拡大版「ごしよの一大事いのちのあらんかぎり ゆだんあるまじき事」が貼ってあった。この言葉は赤尾道宗心得二十一箇条の第一条である。

別棟の宝物館には、道宗に関するたくさん資料が展示されていた。

ホテル到着後の佐々木玄吾先生のご法話も道宗に関わるお話で蓮如上人御一代記聞書の「道宗、近江の湖を一人してうめよ」畏まりたる。仰せにて候わばならぬこと、あるべきか」とのお話は、道宗が蓮如上人を信頼し信順していたかが伺われる。

行程の厳しい中で、妙好人赤尾の道宗という人に少しではあるが、触れられたことに感謝をし、道宗二十一箇条の一つでも実行できたなと思う。

御同行の皆さんお世話になりました。

真宗王国の北陸を旅する

住職 池田 孝郎

北陸には何回か旅行しましたが、今回の北陸の旅は感動の旅であった。何故かと思えば、五箇山の相倉合掌造りの集落は尋ねてはいたが、一般の旅行会社の企画であったので、赤尾の道宗の寺、「行徳寺」を訪れていなかった。是非行きたいと願っていたところ、幹事の方が旅行のメインとして企画され実現したことでありました。

蓮如上人の御一代記聞書の「近江の湖を一人して埋めよ」と上人が仰せられても、「その時わたくしは、畏れましたと申すであろう。仰せであれば成らぬことがある筈がない。」と道宗がいわれたとする背景が如実に身をもって傾くことが出来たことは最大の収穫であった。割木の寝姿も、瑞泉寺へ真冬の晨朝に雪を押し参る話もあり、命がけであったことを思い知らされたことでありました。赤尾道宗心得二十一箇条が道宗そのものの心得でありました。

又、何故北陸が真宗王国に成り得たかの背景にも、蓮如上人のご苦勞は然る事ながら、五代目蓮如上人の北陸開教と、中国からの使者の国書と返書に絆如上人が関わり日本侵略の危機を救い、後小松天皇の勅願所として瑞泉寺が存在したことの由来を知り、真宗王国の端緒を開かれた原初を垣間見た思いでありました。



五箇山相倉集落にて

そして、近代の真宗に大きく貢献された、鈴木大拙師の鈴木大拙館を拝観したことであつた。禅と念仏が融合し静寂の中に凜とした空間に、浄土の風光を感じたことであつた。師は禅の大家であると共に、真宗に傾倒され、妙好人を英文で世界に紹介されることも、教行信証を英文で翻訳され、オックスフォード大学より完成したものとして近年出版された。禅を世界に知らしめると共に、浄土真宗をも世界に知らしめて下さった功績は大きいものであります。それを大拙館としての空間に於いて感じ感慨も一入でありました。

まだまだ北陸は多くの、奥深い文化を秘めており、再々に訪れたいと思う旅でありました。

南無阿弥陀仏。

富山・金沢・赤尾の道宗をたずねて

坊守 池田 邦子

小雨そぼ降る富山、流石に寒い、バスを走らせ昼食後、早速赤尾の道宗開基の寺、行徳寺さんへ参詣広い本堂にて、坊守様には道宗の逸話を懇切丁寧にたつぷりとお聞かせ頂きました。蓮如上人を師と仰いだ妙好人、お念仏の(アミダ様の)御恩を忘れない為割り木を敷き布団代りの上に横たわる、木像の涅槃像を拜ませて頂きました。ホテル到着後「道宗・近江の湖を一人してうめよ」の佐々木先生の御法話を拝聴しました。蓮如上人に全幅の心を持って、さからわず従って行かれ、又、仏恩報謝の念に生きられた道宗さんの人間性には、頭の下がる思い感銘を受けました。次の日は鈴木大拙館見学、平成二十八年同朋新聞十一月に館長の木村宣彰師(報土寺住職)の「最も抽象的なものを最も具体的に見る鈴木大拙」の記事あり、それを読み今私が、如來の呼び声を具体的に聞き、考える事の大切さを学びました。当寺の旅行が本当にタイムリーな旅に感じられました。副住職、三幹事さんの企画に感謝、御参加頂いた方へ感謝、有り難う御座居ました。合掌

赤尾の道宗に思いを馳せて

副住職 池田 孝三郎

今回、幹事さんと旅行の企画を立てるに当たり、北陸新幹線で北陸へと決定し、真宗土徳のある地であるの

で、真宗のご旧跡巡りは膨らませば膨大になってしまうので、絞り込むのが一苦労ではありましたが、絵解きサークルで丁度学んでいたこともあり、富山県赤尾の道宗を訪ねることを目玉として旅程を組むことに決まれば内容が早くにまとまったかなと思いました。

道宗さんは幼くして父母と死別し、父母を慕う憶いで求めたはてに蓮如上人との巡り遇いを経て、真実の親(阿弥陀)に出遇い弥陀の本願に帰して行かれた方です。有名なエピソードはいくつかあつて「四十八本の割木の上で寝て、寝ても弥陀の本願の恩を忘れないように」ということや、「月に一度の井波の瑞泉寺への参詣(約30km強)や、大雪の大晦日から元旦にかけての瑞泉寺への参詣、又、京都の本山への参詣も一年のたしなみにしておられました。(吾はすべて徒歩です)。」

ホテルにて佐々木玄吾先生のご法話でお話頂きました「道宗、近江の湖を一人してうめよ」は「蓮如上人御一代記聞書」一九二条の蓮如上人のお言葉ですが、その文脈において、「凡夫の身が仏となるという善知識の仰せ」というのは、ただただ頂いていく念仏者の有り様を改めて学ばせて頂きました。そして、道宗さんにおいては前述した内容を持って具体的に求道の生活を送って行かれたと感じさせて頂き、赤尾の地に足を運んだことで道宗さんのご精神に触れました。

幹事様はじめ参加者の皆様と、又、娘の唯奈と貴重な旅行が出来ましたことに御礼申し上げます。 合掌

瑞泉寺

赤秀 品枝

昨年十月二十九日三十日光照寺の旅行に参加することができました。幹事の皆様にはお世話になりました。とうございました。

私は一番に残ったのは井波別院瑞泉寺です。本願寺第五代綽如上人が開かれたそうです。勧進帳を作られた有縁の人の浄財によつて建立されたそうです。瑞泉寺は、火災にあう度に再建されて今日も立派な本堂や山門がそびえ立っていて圧倒されました。真宗王国とは言え今日まで富山の井波というところに脈々と続いていることに驚き、又親鸞聖人の報恩講、御正忌、綽如上人法要等が年間行事として続いていることにも驚きです。仏法興隆は今日なかなかむずかしいと思つていたのですが、立派なお寺が人々の生きる場としてそびえ立っていることに力強さを感じました。参道の両側の彫刻の店々もゆつくり見学したかったのですが時間の余裕がなくて残念でした。機会があったら再度訪ねて行きたい場所になりました。

北陸の旅、富山・金沢へ

大塚 陽子

今回は、北陸新幹線で富山と金沢



井波瑞泉寺にて

の真宗にゆかりの地を訪ねること、北陸方面は初めてだったので、新鮮な気持ちで参加しました。そして今回、息子と二人の参加になりました。

初日は、赤尾の道宗で有名な蓮如上人の弟子で妙好人が開基した行徳寺、道善寺を訪ね、山あいの冬は雪深い所で、信心を得て、念仏を弘めたのだと思うと、大変だったろうという思いがわきました。また、寝る時は木を並べて、その上で如来のご恩を常に忘れてはいけないとあえて寝ていたと聞き、すごい方だなあと思いました。

世界遺産になった合掌造りで有名な五箇山を訪ね、昔の人の生活の知恵に感心しました。

井波別院は、本山のように広い敷

地で、また建物も立派で驚きました。

二日目は、金沢へ移動し、鈴木大拙館や兼六園へ行き観光しました。ひがし茶屋街も散策し、地酒などおみやげを買い、その後で、近江町市場も行き、金沢の見所を堪能した日でした。

今回は、富山、金沢とそれぞれ魅力ある場所を訪ねることができ、新たな発見もあり、大変意義深い旅行になりました。

光照寺には、大変お世話になりました。また、旅行幹事の方にも準備やお世話を頂き、有り難うございました。

北陸（富山・金沢）へ

大塚 雄介

今回、真宗王国と呼ばれる北陸の旅に参加させていただいて現地の真宗に対する思いの深さを知りました。それぞれのお寺や井波別院に彫刻など数々の展示があつて教えが弘まり、根付いていなかったら現代に残されていなかったであろうと思います。

旅

岡田 ノリ子

秋の旅行シーズンの良き日に光照寺の北陸旅に参加させて頂きました。越中五箇山、赤尾の行徳寺では、道宗さまの辛い生い立ちが身にしました。四才で母と死別し、十三才で父との別れ、親のいない悲しみをなげきどうしたら親に逢えるだろうかと思うばかりでしたが、夢の中で蓮如上

人に遇うと別れることのない親に逢えますよと告げられ、真剣に上人のお話を聞き帰依された。それから命のあるかぎり、油断してはならぬと、自分の身を責めその心をせめて聞かせる。道宗は救われるはずのないその身にこそ恩を忘れないように夜は四十八本の割木の上に寝て過ごし、自分の如きあさましい人間は布団の上になては恩が忘れてしまう、せめて眠りにくいままの上に寝てお念佛申すだけ、これは恩のありがたさと、人間とかく苦しみ悲しみ辛さが過ぎてしまふと忘れてしまふ愚か者ですが深い教えを頂き、人生の無常に心を打たれ本願に遇つて感動し大悲の光に照らされるゆゑに我身のあさましさにわび、ただお念佛申すしかないこの身であると言い伝えて逝かれたお念佛者であります。私はこのようなりっぱな念佛者に今日お会い出来ました事に感謝申し上げます。

南無阿弥陀仏

参加の想い出

北川 美智雄

光照寺の行事となつています旅行への参加は、この数年来毎回、私用と重なり叶いませんでしたが今回は、弥陀のお導きと思われる様に旅行のご案内以来から、わくわくする思いで、私にとって初めての北陸新幹線で富山・金沢へ世界遺産五箇山と、妙好人赤尾の道宗を訪ねて、砺波ロイヤルホ

テルでは佐々木玄吾先生の法話をありがたく拝聴し、強く心を動かされました。特に、ホテルでの夕食中参加者一人一人の旅行等の思い出話に対して、例の池田住職の上手なコメントで盛り上がり、楽しい思い出の一つとなりました。副住職初め幹事の皆様に感謝感謝です。

福光・才川七という地に私の曾祖父、祖父と父の生誕の地であり三年前家内と二人で、当時の北川家の皆がお世話になった浄土真宗の宗善寺の四十五代目住職と本堂の阿弥陀様に御礼申し上げられた事がつい最近の如く想い出されました。金沢もすばらしく心に残りましたが、富山の地は、格別のものがありました。合掌

話す人になれ

佐々木 玄吾

先師細川巖先生は、私が四十二才の時に「聞くだけでは足りない。話す人になつてこそ、自利利他である」というお手紙を下された。今回光照寺の旅行で、「道宗、近江の湖を一人して埋めよ」という話をさせてもらったのもそのお手紙の実践であつた。

人は皆、壇上に立たなくても話す人である。親は子にとっては善知識である。善知識とは自ら善知識を持つ人であると言われる。道宗が五百年経った今も人々の尊敬を集めているのは自ら蓮如上人を善知識として仰いだからである。私共も一人の師を



佐々木先生のご法話

このお話を聞いていたから私は、平成五年、豊平へ喜んで行けたのである。

細川先生のお勧めで夫はすぐに決心した。そして私は「豊平へ行ったら沢山の友達ができるよ」と夫に促されて決断。それを報告した時の先生のお顔が忘れられない。「それはよかった。鬼に金棒だ」と。

本堂での坊主様のお話にも感動した。毎夜割木の上で寝られる道宗様のお姿を再度しっかりと心に刻んだ。

五箇山のとんがり屋根の絵のような風景。だが現地で生活される人々の思いや暮らしは大変だろうと思う。

ホテルで夕食の後、皆さんとの交流が出来たのが、とてもよかった。光昭寺で又、お会いしましょう。合掌

妙好人「赤尾の道宗を訪ねて」

佐々木 みつ

今回の北陸新幹線―富山―金沢の旅で初めて参加されました松原さん親子と一緒に行了きましたことは嬉しく又楽しい二日間でした。後日逢いました時に行つて良かったと思ひ出話が出来ました。

蓮如上人に師事された道宗のお話を行徳寺で聞き感動し薪の上に横になつている道宗のお姿に頭が下り手を合せました。

鈴木大拙館では水鏡の庭で静かに目とど座っている方を見て「無心」という「何ものにも囚われない心で行えばうまくいく、それが何であれいい

なる媒介物をも用いないのである」あの方は何を思ったのでしょうか。

夕食前の佐々木玄吾先生のお話で善知識の人からのやさしい言葉で人は叱られないといけないのだ。普通では考えられないのだけれど叱つてくれる人と親しくなり尊敬すれば実感として我が身に良きことがおこるのではないかというお話を聞き特に尊敬するという言葉に気が付きました。

山並みから沸き立つ霧の美しさをバスから眺め二日目の兼六園、昼食、買物も楽しく光昭寺様又幹事の皆様に感謝と御礼を申し上げます。帰路バスの中のかえ歌、クイズとにぎやかで夢の様でした。合掌

北陸路の旅行に参加して

清水 俊雄、令子

今回、光昭寺の旅行に初めて夫婦で参加させて頂きました。団体旅行に不慣れな私たちがでしたが、皆様の温かい御気遣いを頂き最後まで色々見ることができありがたう思つております。富山・金沢に出かけるのは始めて期待を膨らませての出発。北陸新幹線に乗るのも始めてで大宮駅を出ていつの間にか長野駅、速いなど思っているうちに富山駅に到着。富山の街並みもこちらと違い雪の降るところに來たのだと感じさせられました。

五箇山（相倉集落）周辺には、赤尾道宗が開かれた行徳寺に、創建された道善寺、建物が立派で重厚な井波

別院瑞泉寺と数々のお寺があるのに感動しました。また、佐々木玄吾先生の法話「道宗、近江の湖を一人してうめよ」には、私の出身地が滋賀県で小さい頃は毎日と言つていいほど琵琶湖を見ていましたので、そんなことが出来るのかなと思ひながら耳を傾けて聞き入つておりました。

翌日は、金沢の名勝地を堪能し、思ひ出ある旅路でした。趣味の写真に少し没頭した旅行で、撮影した写真は作品展に展示しました。足の不自由な私を見守つて頂きありがとうございました。今までにない2日間17,000歩ほど歩きましたが、楽しい旅行でした。

真宗王国を旅して

藤原 自雄

昨年の4月下旬に福井県を旅行し、護持会の平山さんとともに蓮如上人御影道中の列に加わりました。春の北陸路を御影道中の目的地である吉崎御坊まで、全国各地から参加された門徒の方々とともに、上人の御影を載せた輿を引きながら歩きました。途中で立ち寄る寺や各集落の沿道で、多くの門徒の方々が輿に手を合わせられる姿を見て、その祈りを肌で感じました。ここは古くから山や川も念仏している地、真宗王国なんだと、改めて思ひました。

今年の光昭寺の旅行は富山・石川両県への旅。奇しくも福井県とは隣組で

北陸への旅

佐々木 文子

今回もまた、御同朋の皆様と共に楽しい旅にお誘い頂きありがとうございました。

この旅での一番の感動は、常々聞かせていただく「蓮如上人御一代記聞書」にある「道宗、近江の湖を一人して埋めよ」と仰せ候うとも「畏りたる」と申すべく候ふの、行徳寺参拝であつた。



金沢兼六園にて

「真宗王国」と呼ばれる土地。私にとつて御縁を強く感じる旅となりました。

富山駅からバスに乗り、まずは向かったのは「赤尾の道宗」が開基した五箇山の行徳寺と道善寺でした。バスはひたすら山奥へと走りました。長いトンネルを幾つも潜り抜けてたどり着いたのは山深い里。そこに行徳寺と道善寺がありました。道宗は山深い五箇山を隅から隅へ歩かれ念仏を広められた方。また嗜みとして月に一度は井波の御坊へ参詣され、年に一度は遠く本山に参詣された方ということに承知しておりましたが、実際に縁の寺にお参りして、高い山々、深い谷を目にして、道宗の御苦労、情熱に心打たれました。

次に向かったのは同じく五箇山にある合掌造りの相倉集落でした。現

地のガイドさんの案内で集落を見学し、建物やこの土地の人々の暮らし、文化等の説明を受けました。その話は報恩講でいただくお斉の料理内容にまで及び。ガイドさんの「ここら辺の人は、ほとんど真宗門徒です。なんといつても真宗王国ですから…」との説明に、道宗は今も人々の心の中に生き続け布教なさっている…。そんなことを思ったりしました。

今回の旅行で多くの名所、旧跡を巡りました。それぞれが思い出深く心に残っております。その中でも特に強い印象として残っているのは金沢の鈴木大拙館です。

鈴木大拙は禅宗を世界に紹介した仏教哲学者として知られていますが、一方では真宗との御縁も深く、大谷大学で奉職され、曾我量深先生や金子大榮先生とも親交のあった方です。私は20代の頃、大拙先生に心ひかれた時期がありました。久々に「大拙の世界」に浸ることができて良い時を過ごさせていただきました。

色々なことがあり、色々な思い出を残してくれた旅行となりました。旅行幹事の皆様をはじめ、共に旅行をさせていただいた皆様には色々とお世話になりました。ありがとうございます。

北陸旅行

松原孝子

旅行に参加できありがとうございました

ました。

北陸新幹線にはじめて乗って、景色を楽しめました。

五箇山のガイドさんの説明、良かったです。

兼六園も前に行きましたが、ただ歩いただけで今度はガイドさんの説明がありよくわかり楽しかったです。帰りのバスの中、住職さんのお話、クイズ、替え歌とてもたのしく私事です。が佐々木さんに「いいお話が聞けて楽しいわよ」と聞いていた通り、いいお話でありありがとうございました。光照寺のみなさま、役員のみなさま、ありがとうございます。

北陸旅行に行つて

松原未知代

今回初めて旅行に参加させていただきました。

母の知り合いの佐々木さんも一緒に心強く、母の田舎ということもあり行こうと言う事になりました。

行徳寺さん新屋道善寺さん瑞泉寺さんそれぞれ特徴があり、他の土地でのお寺さん巡りをしてみたくになりました。

五箇山の集落は雨でイヤだなあと思っただけで、写真をとったら幻想的な雰囲気撮れていて晴れより結果的には良かったです。

兼六園は違う季節に又行ってみたいです。

足が痛かったり、母と旅行に行く

機会も無かったのですが、良い機会をあたえていただきありがとうございます。

これからは近場でも行けたら良いなあと考えています。

ホテルの夕食で配られた、おせちブレゼントに応募したら当たりました!!とにかく北陸の旅は良い事づくめでした。

ありがとうございます。

旅行に初参加して

柚木英一

妻を亡くしたご縁にて参加させて頂きました。

最も印象に残った事は赤尾の道宗様です。道宗様は先生から、琵琶湖を一人で埋めなさい、と言われれば何の疑い無く喜んで受け承り、妻から、おみやげが少ない、と言われれば旅装も解らずに厳しい雪の山路を先生のもとへ引き返した等の話は私はいかに先生や上司の真意や妻の苦勞を理解しようとしないうちの人間であつたか思い知りました。

鈴木大拙館の庭は、心が静かに澄んでゆく不思議な空間でした。

このような、現地でないで得られない貴重な体験を隣の先輩（私のお守役）に口数少なく話している間に大宮に着いてしまい、私の若い頃には、まる一日かかる所を改めて新幹線の威力に驚きました。

お知らせ

— 寺務所より —

◆法要のご案内

●春季彼岸会 法要 三月二十日
(月)、午後一時三十分より厳修。

◆光照寺護持会

会員の方は護持会費の納入をお願い致します。又、随時新会員受付中。別紙案内をご覧ください。総会は六月十日。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のお教えに聞く会

講師は延塚知道先生(大谷大学特別任用教授 三月十日、五月二十九日、七月二十四日、午後一時半～四時半。『教行信証』を学んでいます。

●大経の会

二月二十六日、三月四日、四月二十九日、五月七日、午前十時～午後三時まで。講師は佐々木師と住職の担当月別。『正信偈讃仰』(五)を学んでいます。お弁当持参して下さい。

●我聞の会

二月十五日、三月十五日、四月十三日、五月十一日、午後一時～四時まで。『真宗の簡要』(住職著)サブテキスト「無量寿経に聞く」(松原祐善著)を学んでいます。講師は住職。

●微風学舎

毎月開催。午後七時～九時まで。講師は副住職。『顕浄土』の教学・親鸞における現生不退の視座、(副住職著)サ

ブテキスト「今日のことは」真宗の生活」を学んでいます。二月二十一日、三月二十七日、四月十八日、五月二十二日。

◆聲明サークル「響き」

第五期聲明サークル開講。二ヶ月に一回開催、二年間。日常勤行を楽しく学んでいます。興味ある方はご参加下さい。次回、三月二十七日、五月二十二日。午後二時～四時、講師は副住職。

◆絵解きサークル

親鸞聖人、蓮如上人など、絵解きを通して学んでいます。興味ある方はご参加ください。二月二十一日、四月十八日、六月六日。午後二時～四時。

◆さいたま親鸞講座

午後二時～四時。会場は大宮川鍋ビル。四月十五日、六月十日。講師は四衛亮氏。

◆お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご用意下さい。

住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。宜しく願います。

俳句・川柳



遠浅間開平橋の初景色

吉澤

光昭

殺生の仕掛けは置かで松の内
雑煮餅小さく切らるる齡かな

どちら様母は菩薩で生きてます
十字架を避けて邪心の迷い道

山田 恒

短歌(詩)



佐藤 セツ子

「嫁さんに花教えてね」と言えし子は
めとらずのまま吾に先だつ
「おじさんへ」と書き添えられし似顔絵は
なき息子の部屋の鴨居をかざる

佐々木 玄吾

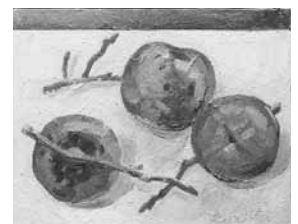
冬晴れに多摩川土手を一人歩く
自立の体作らんとして
親指と人差し指で輪を作り
虚弱の目安ふくらはぎ計る

赤秀 品枝

忘恩の我に知らせんわが夫は
菩薩であるぞと師わが前で説く
齡重ね記憶も衰え恥多し
念仏のみが意欲まします



修正会住職法話

小林さんちの次郎柿(油彩)
山田 邦興 画

梵鐘

オバマ大統領が広島を安部首相が真珠湾を訪問し歴史的な行動を評価され、和解の象徴、不戦の誓いという未来志向の同盟関係を強調した。戦争は悲劇であるが、地球上に戦争がなかった日はない。複雑な国家、国民のエゴは一時に均衡を得たとしても環境が変われば事態は急変する。戦いにあったものは悲しみを共にすることなしに恨みが許しに変わることはない。私たちと悲しみを共にしてくださるのが如来の大悲であり、その前には自らのあり様を常に問われ、縁があれば何をするか分からない我が身を揺り動かされる。個の集団が国家であることを心に留めなくてはなるまい。合掌 釈尼雅亮